

一般財団法人愛成会 弘前愛成会病院

認知症疾患 医療センター

ご案内



【相談窓口】 一般財団法人愛成会 弘前愛成会病院（医療福祉相談室内）

【受付時間】 月曜日～金曜日（年末年始を除く） 9時～17時

【専用電話】 ☎ 0172-35-6464（FAX兼）

☎ 0120-085-255（フリーダイヤル）

抱え込まずに相談を…

高齢化が進む日本では、いまや85歳以上の4人に1人が認知症になっていると言われます。認知症は、誰もがなる可能性のある身近な病気です。

認知症が進行すると、日常生活を上手く送ることが難しくなります。早く治療を開始することで症状の進行を遅らせることができます。「心配だな」と思ったら、できるだけ早く医療機関に相談してください。他の病気と同じように、早期発見・早期治療が重要です。

症状が進むと、家族による介護が必要になります。身体の病気の介護とは異なる苦勞があります。長期に及ぶ介護が必要になるので頑張りすぎると家族が疲れてしまうこともあります。

福祉サービスなどを利用して、余裕を持って介護にあたることが大切です。介護が大変だと感じたときは抱えこまずに、医師、ケアマネージャー、行政の窓口に相談してください。



認知症疾患医療センターとは？

認知症疾患医療センターは、地域における認知症に関する専門的医療の提供と、医療と介護の連携を強化するために、国及び都道府県の事業として進められています。

弘前愛成会病院は、平成23年11月1日から青森県の委託により、認知症疾患医療センターを開設し、運営しております。

認知症疾患医療センターでは、以下の事業を行っています。

認知症に関する相談

認知症に関する心配や困りごとに、専門の相談員が対応します。費用は無料です。

また、医療機関や介護事業所、行政機関からの相談にも対応します。

認知症の早期診断と鑑別

ご本人を診察し、認知機能検査や画像検査などにより、認知症の診断を行います。原則として、保険診療で対応いたします。健康保険証をご持参ください。診断結果に基づき、医療、介護、支援の方法を検討致します。状況に応じて、他の医療機関や介護施設などのご紹介も致します。

認知症やその合併症の治療

身体の病気を合併していたり、周辺症状（興奮、徘徊、睡眠障害、妄想など）が著しい場合にはその治療を行います。入院治療にも対応いたします。身体合併症の治療については協力病院との連携体制をとっております。

認知症に関する研修

認知症に対応するための知識や技術を高めることを目的に、かかりつけ医や介護関係者などへの研修会を開催します。

認知症には、原因となる病気によって 色々な種類があります

認知症は、何らかの原因で脳の働きが低下することによっておこる病気です。現時点では根本的な治療法がまだ開発されていない認知症と、薬や手術によって予防や治療が可能な認知症があります。

「アルツハイマー型認知症^{※1}（アルツハイマー病）」や「^{しょうたいがた}レビー小体型認知症^{※2}」は変性疾患と呼ばれ、脳の神経細胞の数が徐々に減少する病気です。

根本的な治療法はありませんが、薬によって症状の進行を遅らせることは可能です。

「血管性認知症」は、脳梗塞や脳出血などが原因で起こります。高血圧、糖尿病、脂質異常症などをしっかり治療することで予防や進行の抑制が可能です。

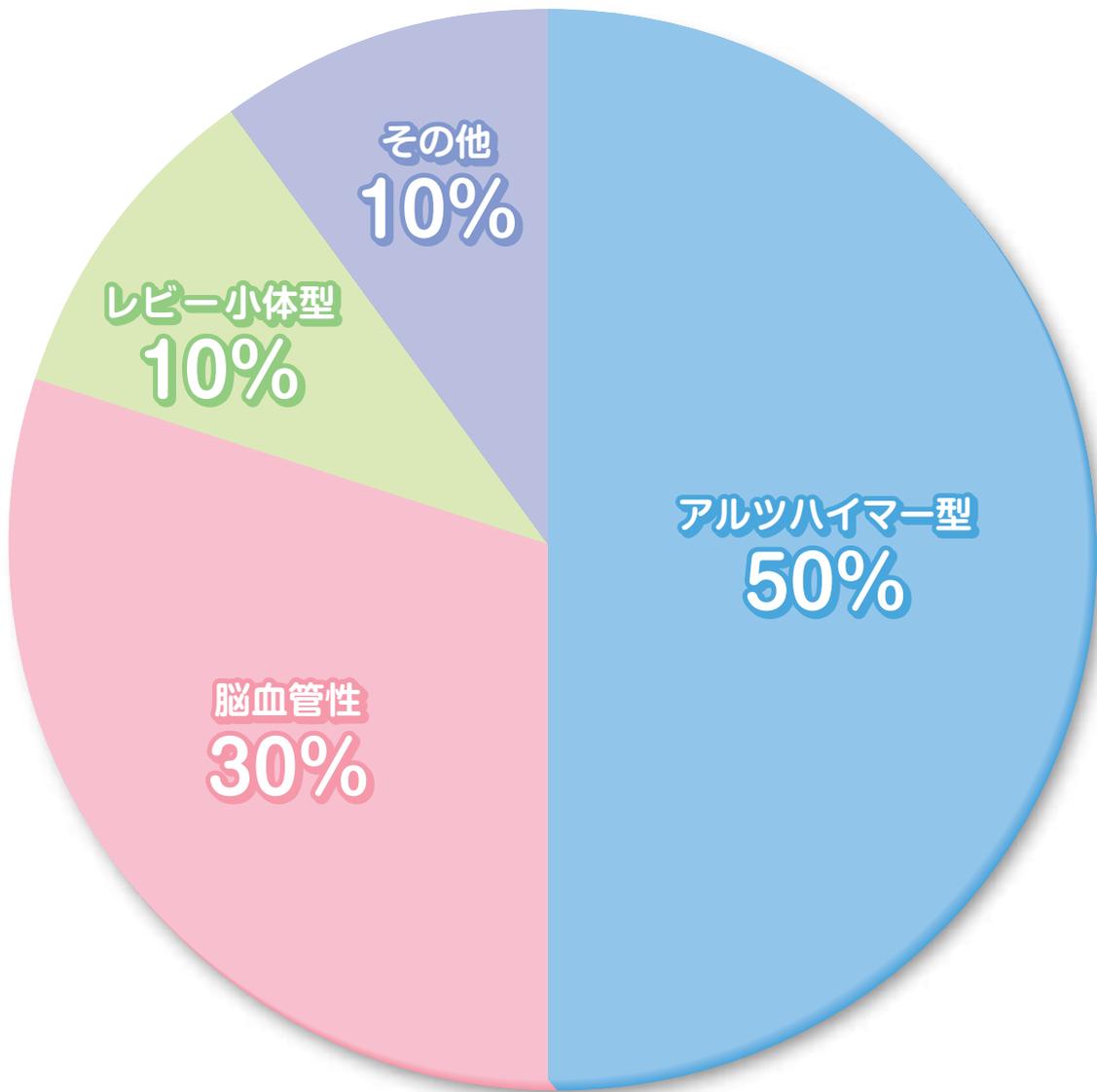
頭部外傷によって、頭蓋骨と脳の間^{まんせいこうまく}に血液がたまる「^か慢性硬膜下血腫^{けっしゅ}」や^{のうしつ}脳室^{※3}が拡大して起こる「^{せいじょうあつすいとうしやう}正常圧水頭症^{※4}」は、脳外科手術によって治療が可能です。

甲状腺の働きの低下、ビタミン欠乏などを原因とする認知症は薬物治療で改善する可能性があります。

※1 **アルツハイマー型認知症**…^{いしゆく}脳全体が萎縮し、認知症状が生じます。また言語・運動などに障害が生じ、症状は急激に進行することがあります。原因や治療法などもまだわかっていません。

※2 **レビー小体型認知症**…脳に^{げんし}レビー小体という異常なたんぱく質がたまり、^{げんかく}認知症状が生じます。幻視などの幻覚があるのも特徴です。運動機能にも障害が生じ、転びやすくなることもあります。原因や治療法などもまだわかっていません。

※3 ※4…^{のうしつ}脳の中には、脳を保護し、また栄養分を供給するために^{のうせきすいえき}脳室という空洞があります。脳室は常に^{のうせきすいえき}脳脊髄液で満たされており、常に循環しています。脳脊髄液の循環がうまくいかないと脳室が拡大して正常圧水頭症が起こります。



日本では「アルツハイマー型認知症」、「脳血管性認知症」、「レビー小体型認知症」がその大半を占めており、中でも最も多いのが「アルツハイマー型認知症」です。

認知症の種類によって、症状や治療方法はそれぞれ異なります。どのような原因であっても、早い段階で診断を受けて、適切な治療を始めることが大切です。

認知症の中で最も多いのは、 アルツハイマー型認知症です

アルツハイマー型認知症は、記憶力の低下で始まり、日付や曜日がわからなくなる、仕事や家事の要領が悪くなる、言葉がスムーズに出ない、よく知っているはずの道に迷うなどの「**中核症状**」がみられます。いつのまにか始まり、緩やかに進行していくのが特徴です。

また、イライラして怒りやすくなる、自分の物を誰かに盗まれたと主張する、目的も無く屋外に出て歩き回るなどの「**行動・心理症状**」が現れることもあります。「行動・心理症状」は「**周辺症状**」、「**BPSD**^{*}」とも呼ばれます。

「中核症状」はほとんどの方にみられ、病気の進行とともに、徐々に強くなります。

「行動・心理症状(BPSD)」は、すべての方にみられるわけではありません。個人差があり、環境や家族の接し方によっても、軽くなったり、強く現れることがあります。

※ BPSD…認知症の行動・心理症状 (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)



中核症状

行動・心理症状

中核症状

- ・数時間前の出来事を忘れてしまう
- ・同じ内容の話を繰り返す
- ・しまい忘れや置き忘れが増える
- ・日付や曜日がわからない
- ・仕事や家事の要領が悪くなる
- ・季節に合った服装を選べない
- ・よく知っているはずの道で迷う
- ・使い慣れた「モノ」の名前が出てこない
- ・簡単な図形や時計の絵が上手く描けない

行動・心理症状(BPSD)

- ・イライラすることが多くなる
- ・些細なことで腹を立てる
- ・続けていた日課をしなくなる
- ・財布や通帳などを誰かに盗まれたと主張する
- ・誰もいないのに、誰かがいると主張する(幻覚)
- ・無目的に屋外に出て歩き回る(徘徊)

認知症かな…と思ったら

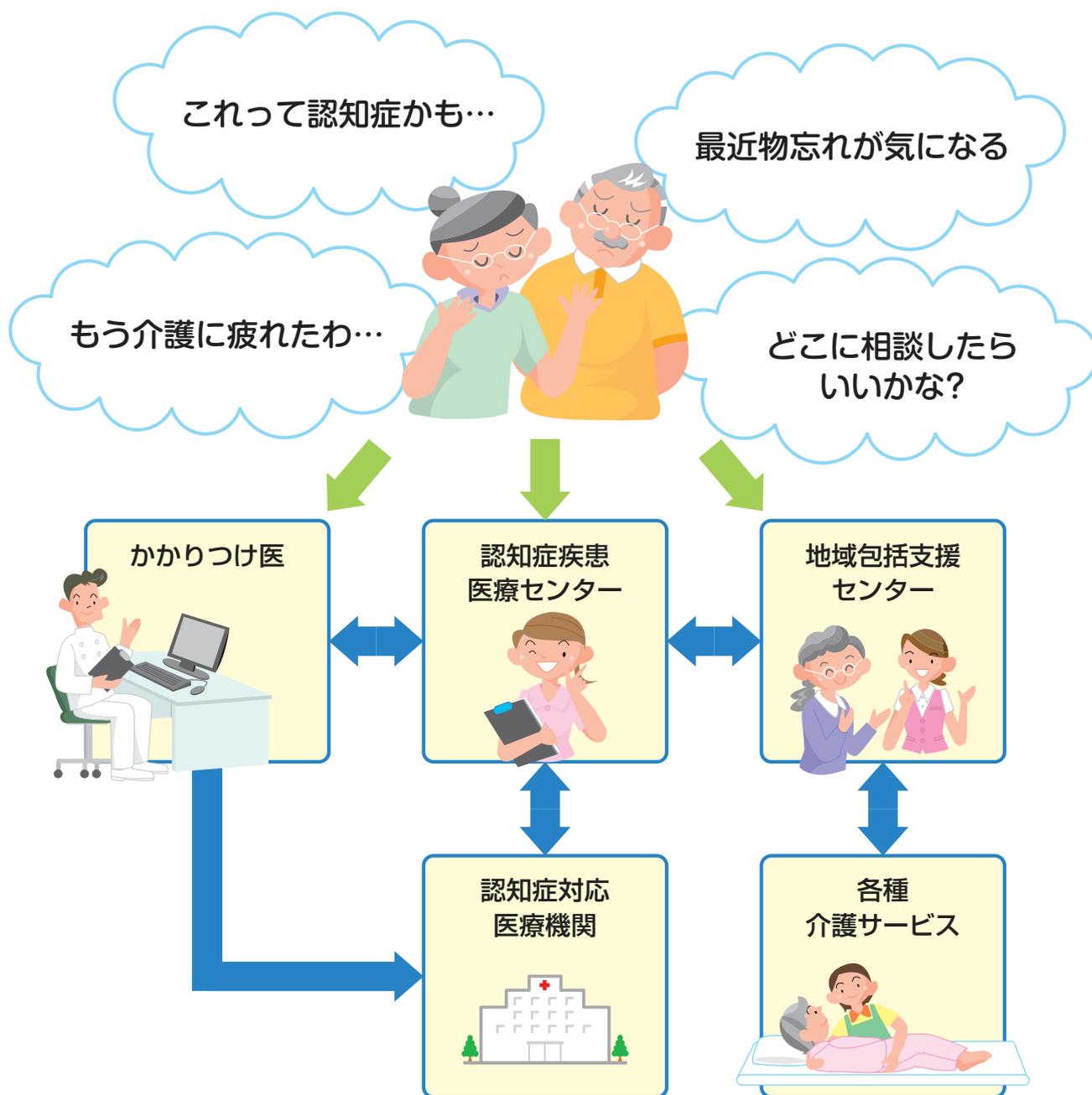
認知症は、早く発見して、正しく診断されることで、適切な治療が受けられる病気です。治療が可能な認知症であれば、治療により、症状の改善につながります。

アルツハイマー型認知症であれば、症状の進行を遅らせることができます。また、早い段階から適切なアドバイスを受け、福祉サービスなどを活用することで、ご家族の介護の負担を減らすことができます。

認知症かな…と思ったら、できるだけ早めに医療機関を受診することをおすすめします。



どこに相談すればいいの？



まずは普段お世話になっているかかりつけ医に相談しましょう。また、認知症疾患医療センターやお近くの地域包括支援センターでも認知症に関する相談をすることができます。

※認知症疾患医療センターでは、相談内容に合わせて受診の調整や対処方法などをご案内します。必要時には他の病院や地域包括支援センター、市町村役場、保健所などとも連絡・調整しますので、遠慮なくご相談ください。

こんな症状に気づいたら相談を



家族がつくった

「認知症」早期発見のめやす

物忘れが
ひどい

- 1. 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 2. 同じことを何度も言う・問う・する
- 3. しまい忘れ・置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- 4. 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

判断・理解力が
衰える

- 5. 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 6. 新しいことが覚えられない
- 7. 話のつじつまが合わない
- 8. テレビ番組の内容が理解できなくなった

時間・場所が
わからない

- 9. 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 10. 慣れた道でも迷うことがある

人柄が
変わる

- 11. 些細なことで怒りっぽくなった
- 12. まわりへの気づかいがなくなり頑固になった
- 13. 自分の失敗を人のせいにする
- 14. 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

不安感が
強い

- 15. ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 16. 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 17. 「頭が変になった」と本人が訴える

意欲が
なくなる

- 18. 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 19. 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- 20. ふさぎ込んで何をするのも億劫がり嫌がる

日常の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を、「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。

いくつか思い当たることがあれば、一応専門家に相談してみることがよいでしょう。

(出典・公益社団法人 認知症の人と家族の会 入会パンフレット)

アルツハイマー型認知症の治療

薬による治療（薬物治療）と薬を使わない治療（非薬物治療）があります。

薬による治療 （薬物治療）

薬をうまく使うこと（薬物治療）で効果が期待できます。アルツハイマー型認知症の薬物療法には、認知機能を増強して、中核症状を少しでも改善し病気の進行を遅らせる治療と、行動・心理症状（BPSD）を抑える治療があります。薬の効果を定期的にチェックしながら、症状に合わせて使っていきます。



薬以外の治療 （非薬物治療）

脳を活性化して、残っている認知機能や生活能力を高める治療法が行われています。家庭内や地域で、本人の役割や出番を作ることが大切です。

回想法（昔の出来事を思い出すこと）、音楽、絵画、陶芸などを楽しむこと、囲碁、将棋、麻雀などを楽しむこと、軽い運動、動物とのふれ合いなども脳の活性化につながります。

家族や周囲の人の対応の仕方によって、行動・心理症状（BPSD）が改善することも多く見られます。



認知症の方への対応

自尊心を
傷つけない

ペースを
合わせる

分かりやすく
簡単に

非言語的
コミュニケーション

認知症の方は

- **事実の誤り**
…「被害妄想」など
- **失敗行動**
…「失禁」「徘徊」など

によってトラブルが生じます。これらへの対応は容易ではありませんが、関わり方を工夫して良い関係を築いていく事が重要です。

<自尊心を傷つけない>

…自分で自分の事がうまく出来ない事にとっても苦しんでいる事があります。「しかない」「否定しない」「無理に説得しない」事を心掛けましょう。事実と異なる事を言っている場合、それに合わせることも必要です。

<ペースを合わせる>

…認知症になると、周囲の状況をうまく理解できない事があります。周りの人がせわしなく動いていたり、ピリピリとした雰囲気になっていると、不安になったり、混乱してしまったりすることがあります。

<分かりやすく、簡単に>

…病気によっては、物事を整理して考えたり、順序立てることがうまく出来なくなる事があります。話しかける際も、「分かりやすく、簡単に」伝えるよう心掛けましょう。

<非言語的コミュニケーション>

…笑顔で寄り添ったり、優しく背中をさすったり、手を握って話したりといった、「ふれあい」や「表情」を工夫する事で、大きな安心感を与える事ができます。言葉ばかりではなく、こういった非言語的なコミュニケーションを多く用いるよう心掛けましょう。

安全を確保するために

危険防止のために、次のことに注意するとよいでしょう。

連絡先

外出時には、名前・連絡先のわかるものを身につけてもらうようにしましょう。

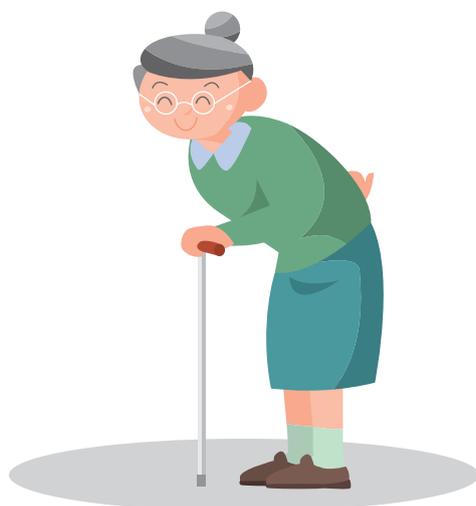
周囲への 声かけ

帰り道を忘れてしまうなど困ったときに助けてもらえるよう、近所の方には事情を説明しておくとういでしょう。

家の中で

転倒防止のため、つまずきやすい場所は段差をなくして、階段や廊下の照明を明るくしましょう。

環境の変化に適応することが不得意になるので、室内には使い慣れたものを置き、模様替えなどはできるだけ避けた方がよいでしょう。



相談窓口

■ 認知症疾患医療センター

〈青森地区〉

青森県立つくしが丘病院内

TEL 017-788-2988

〈認知症疾患医療センター直通〉

● 月～金（祝日を除く）9時～16時

〈八戸地区〉

医療法人(財団)青仁会 青南病院内

TEL 0178-27-5977

〈認知症疾患医療センター直通〉

● 受付時間などは直接お問い合わせください。

■ 老人性認知症センター

受付時間などは各医療機関へお問い合わせください。

むつ総合病院内

TEL 0175-22-2111

十和田市立中央病院内

TEL 0176-25-6111

藤代健生病院内

TEL 0172-36-5181

※平成24年度で事業が終了します。

■ 公的機関

市町村役場及び保健センター（高齢者の保健福祉サービスや介護保険の相談や健康に関する全般の相談）、保健所（心の健康相談）など

■ お住まいの地区

民生委員、ケアマネージャー、各ボランティア団体など



■ その他の相談窓口

◆ 認知症の人と家族の会の電話相談

認知症の人と家族の会 本部

TEL 0120-294-456 ●月～金（祝日を除く）10時～15時

※携帯電話・PHSからのお問い合わせは **TEL 075-811-8418**

認知症の人と家族の会 青森県支部

TEL 0178-34-5320（代表：石戸育子）●水・金 13時～15時

公益社団法人認知症の人と家族の会が運営する相談窓口で、フリーダイヤルによる電話相談を実施しています。認知症に関する知識や介護の仕方など、経験者に丁寧に相談対応してもらう事が出来ます。

また、同会青森県支部でも個別に電話相談を行っています。

介護支え合い電話相談

TEL 0120-070-608 ●月～金（祝日を除く）10時～15時

社会福祉法人浴風会が、介護にあたる家族の悩みなどの相談窓口として設立しています。介護保険など制度利用に関しても対応してもらえます。

若年性認知症の電話無料相談

TEL 0800-100-2707 ●月～土（祝日を除く）10時～15時

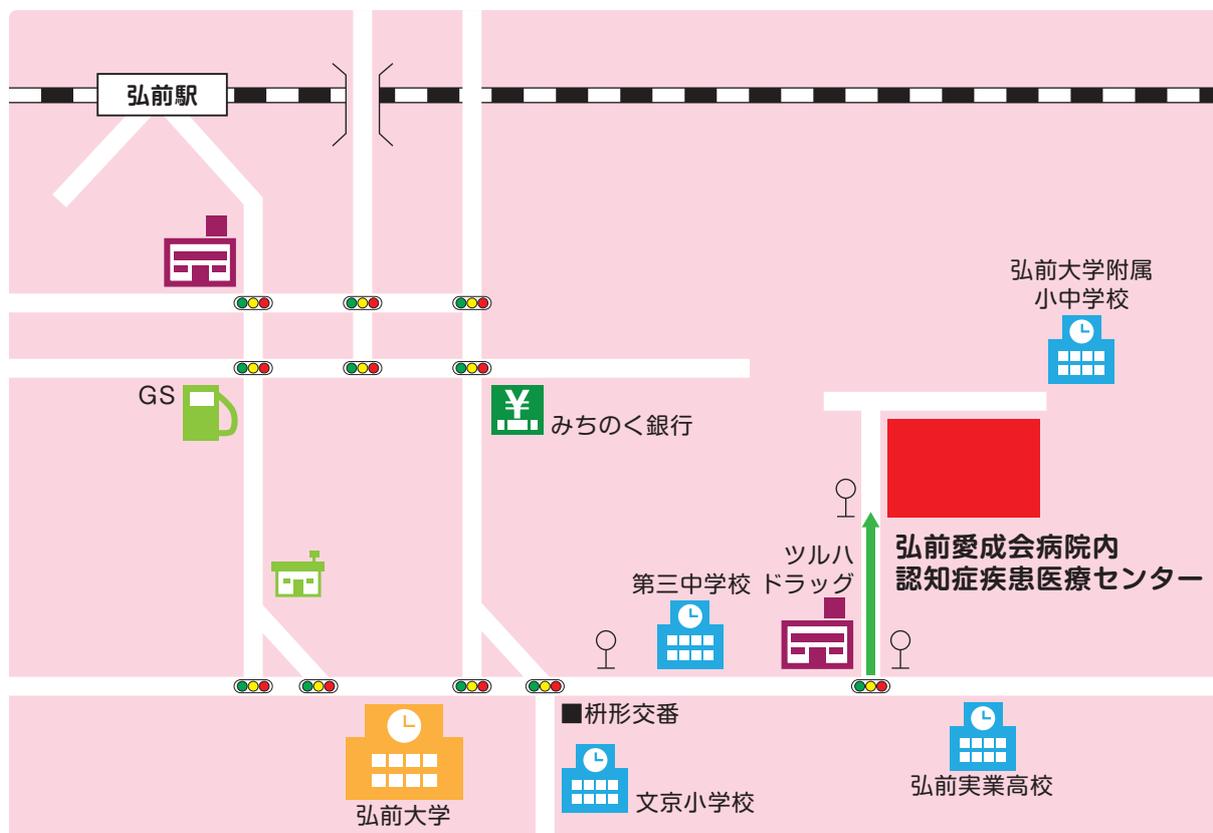
認知症介護研究・研修大府センターが、厚生労働省の事業として電話相談に対応します。若年性認知症に関する様々な疑問や悩みを相談する事が出来ます。

認知症110番

TEL 0120-654-874 ●月・木（祝日を除く）10時～15時

（財）認知症予防財団と毎日新聞社の協力の下、アメリカンファミリー生命保険会社が行っている電話相談窓口です。認知症をはじめとする介護に関する相談に、ソーシャルワーカーや看護師、介護体験者グループなどのスタッフが対応します。

【認知症疾患医療センターへのアクセス】



交通案内

- 弘南バス [学 園 町 線] JR弘前駅前発 = 北園町前下車 徒歩すぐ
- 弘南バス [小栗山・狼森線] JR弘前駅前発 = 三中校前下車 徒歩7分
- 弘南鉄道大鰐線 弘前学院大前駅下車 徒歩15分